

## 第6講：インターネットとフリー思想

インターネット上でデジタルデータ化をすすめる動機／思想のひとつが無料で自由（free フリー）である。書籍やフィルム、レコードなどは複製品の製作が困難であるが、デジタルデータはまったく同一物の複製が極めて容易であり、インターネットによって地球規模での共有が可能となった。著作権に守られたあるいは所有権を行使した「見せない・写させない・使わせない」思想はインターネット時代とは相容れないのではないか、という意思表示である。

### I 著作物とフリー

#### 1. パブリック・ドメイン

著作権フリー、著作権切れ作品、誰でも自由に使える作品、公共（public）物、ただし public と公共は意味が違う。

##### 1) パブリック・ドメインとは

パブリックドメイン (public domain) とは、著作物や発明などの知的創作物について、知的財産権が発生していない状態又は消滅した状態のことをいう。（パブリックドメイン- Wikipedia）

- ・パブリック・ドメイン・アーカイブ <http://public-domain-archive.com/>
- ・青空文庫 <http://www.aozora.gr.jp/>
- ・ウィキメディア・コモンズ <http://commons.wikimedia.org/wiki/メインページ>  
Musei Wormiani、オキアミ、krill これがパブリック・ドメインなのはどうして

#### 2. クリエイティブ・コモンズ・ライセンス

条件付きで誰もが使用できる著作物、博物館や展示でも上手に使用すれば著作者にもメリットがある。

##### 1) クリエイティブ・コモンズ (CC) とは

クリエイティブ・コモンズとは、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス (CC ライセンス) を提供している国際的非営利組織とそのプロジェクトの総称です。

##### 2) クリエイティブ・コモンズ・ライセンスとは

CC ライセンスはインターネット時代のための新しい著作権ルールの普及を目指し、様々な作品の作者が自ら「この条件を守れば私の作品を自由に使って良いですよ」という意思表示をするためのツールです。CC ライセンスを利用することで、作者は著作権を保持したまま作品を自由に流通させることができ、受け手はライセンス条件の範囲内で再配布やリミックスなどを行うことができます。

##### 3) CC ライセンスの仕組み

- ・コモンズ証
- ・ライセンス
- ・メタデータ

以上クリエイティブ・コモンズ・ジャパン webpage <http://creativecommons.jp/licenses/>

オキアミ/krill これがCCなのはどうして？ ゼニガタアザラシ/phoca vitulina/harbor seal で情報量が違う  
[http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Common\\_Seal\\_Phoca\\_vitulina.jpg?uselang=ja](http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Common_Seal_Phoca_vitulina.jpg?uselang=ja) 指示を読む

##### 4) 文化庁自由利用マーク

- ・文化庁は独自に「自由利用マーク」を制定
- ・同庁はCCライセンスは実質追認している、というより放任

## II インターネットとフリー

パーソナルコンピュータは金儲けが目的ではなく、趣味から始まった。ソフトウェアの開発も同様である。インターネットも研究機関の相互結合実験が起源であり、研究も自発的に行なう性格のものである。これらの本性／本質と商業主義や権威者・行政・既得権益擁護派とのせめぎ合いが起きている。

### 3. ソフトウェアのオープンとフリー

1) オープンソース プログラムが公開された（＝誰もが改良できる）ソフトウェア

2) フリーウェア 無料で使えるソフトウェア

これらの制作者にとって／普及上の利点は？

### 4. インターネット上の共有サイトとフリーデータ、その思想

1) 動画共有サイト

2) 画像共有サイト

3) グーグルの提供するサービスと

・地図・衛星画像 衛星画像に著作権はあるか？

・グーグルブックス <http://books.google.com/intl/ja/googlebooks/agreement/#1>

全文検索プロジェクト、図書館プロジェクト、「Google の使命は、Google 独自の検索エンジンにより、世界中の情報を体系化し、どこからでもアクセス可能なものにする事です」Sergey Brin（Google 共同創設者）

### 5. インターネットアーカイブ

絶版図書、稀覯書の全文検索、テキストデータ化は人類の知的財産の地球規模での共有が可能。その一方で現行書籍の場合は著作権の保護が問題となる。全文検索化はアルファベットが有利、日本の木版は困難。「古事記」や「日本書紀」はどこに保管されてきた？誰が見ることができたか？お経は？浮世絵は？

1) 国立国会図書館の取り組み

・描かれた動物・植物 江戸時代の博物誌 <http://www.ndl.go.jp/nature/index.html>

リンク集>国立科学博物館／九大総合研究博物館／福岡県立図書館シーボルト／牧野富太郎

・近代デジタルライブラリー <http://kindai.ndl.go.jp/>

2) 国内アーカイブの取り組み

・国立公文書館「アジア歴史資料センター」 <http://www.jacar.go.jp/>

設立の経緯、社会科授業用資料リスト、千島樺太交換条約、なぜか藤原紀香、使い勝手はいまひとつか

3) アルファベット語諸国の取り組み

・Open Library

The Origine of Species [http://openlibrary.org/books/OL23264120M/The\\_Origin\\_of\\_Species](http://openlibrary.org/books/OL23264120M/The_Origin_of_Species)

・Internet Archive <http://www.archive.org/>

Library of Alexandria, "digital dark age", The Long Now Foundation

・ステラーの報告書 Georg Wilhelm Stellers ausführliche Beschreibung von sonderbaren Meerthieren Halle 1753

アメリカ国会図書館「Meeting of Frontiers」 <http://international.loc.gov/intldl/mtfhtml/mfhome.html>

IA version, zvdd > dgz search > steller last page, ゴシック体 gothic letter

元資料の違い、利用者操作（ユーザーインターフェイス user interface）の使い勝手、リンク先